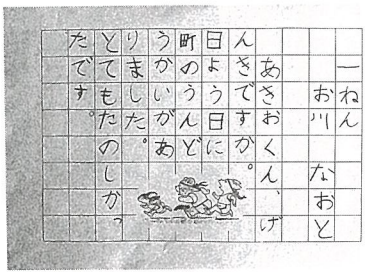
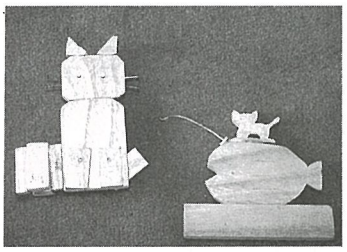
あつまれ みんなの 力作

南条小学校

1年
小川真人くん



※「おれ」「はね」にきをつけていねいに書きました。



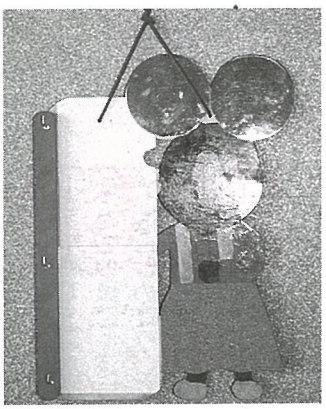
「ねこのつりとえんぴつたて」

4年
関　裕子さん

※魚の上にいるねこの形と魚の形が大へんで、さおをたてるのも大変でした。

2年
土屋美奈さん

※冬休みに書きぞめを練習しました。「み」という字のまるめるところがむずかしかったです。



「ねずみチーズ」

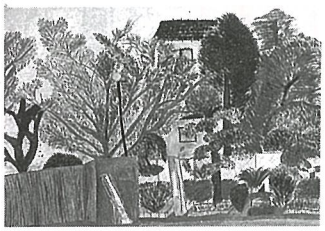
5年
柳橋君衣さん

※今年は、ねずみどしなのでねずみの伝言板を作りました。よくできました。

「ブレーメンの音楽たい」

3年
大内恵子さん

※物語の場面をそうぞうしてかきました。木や空の色をくふうしました。



「秋の校庭」

6年
伊藤卓也くん

※木の色をだすのがとてもむずかしくて、葉っぱをいっぱい書くのも大変でした。

ひかり俳壇

厄祓ふ獅子舞ひをさむ青畳　秋山　一泉（栢田）

三河万歳、獅子舞、猿回しの門付け、戦前まであった正月の風物詩が懐かしい。

買初は七味ときめし門前町　布施　和代（二又）

俳句は日常の詩であると言われる。作者の豊かな感性が市井で拾った詩篇の一駒である。

人の世は塞翁が馬年明ける　布施喜美雄（二又）

人の世の禍福は定りなしの喩えを述懐する齢となり、年頭に当っての処生訓であろう。

初風呂や齢重ねし肌のしみ　大谷　武彦（木戸）

初詣中折帽の似あふ人　椎名　静子（二又）

初明り光彩綾なす沖の空　大木　素風（二又）

大空へ背伸び大きく初仕事　川島　通則（二又）

初御空希望の二文字新にす　土屋　義昭（虫生）

短評　椎名しげる

評者吟

初場所や横綱抛りし力士の目